

市川市民としてのあり方、後編

私たちが生きるこの社会を礎としてずっと支え続けてきたのは、名もなき一市民の人たちの現場での汗と知恵にあります。その奥には、名誉や称讃などの野心から離れた純粋な志があったと思います。志の中には、自己実現も利他の精神も社会変革への切なる願いも込められています。どんな困難な試練があっても真心をもって挑戦し、限りを尽くして生きる。その志は現代を生きる私たち自身の中にもしっかりと伝承されています。そして、今、私たちが直面している日本や社会へのいろいろな危機感があります。社会の混沌、政治や行政の複雑に絡み合った問題の重さもありますが、それ以上に、この大変な社会の現実にも挑めなくなった私たち日本人の人間力の衰退にこそ根本原因があるように思います。突き詰めていけば、やはり私たち自身に行き着きます。私も含めてですが、組織の論理に埋没し、志を埋もれさせていないでしょうか。周りの目を気にし、外からの評価に一喜一憂していないでしょうか。組織や業界の狭いルールの中での競争に勝つことにのみ没頭していませんか。私たちが相変わらず、志を埋もれさせて、観客民主主義を続けていく限りにおいては新しい社会システムの構築は難しいです。ここ3年の経験則になります。問題があるとき、関わる人たちの大半が依存体質です。一方、問題解決に結びつくときは決まって、依存体質だった方々が主体的に動いた時です。「政治を政治家や役人だけに任せるのではなく、私たち市民が主体的に関わっていく。」これが肝要です。これが私の望む市川市民としてのあり方です。前回のものも含め、少し言い過ぎでしょうか？でも、vol.35「みんなが望む政治家らしい政治家との狭間で、後編」でも述べましたが、「激しく世の中に突きつけていくものが無ければ、議員をやっている意味がない。」と感じている昨今でもあります。少しでも何かを汲み取っていただければ、ありがたいです。どうかみなさんも「市川市民としてのあり方」を思い描き、話し合ってみて下さい。個人々の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成26年5月吉日

増田好秀